

2026年5月17日（復活節第7主日（昇天後主日）、A年）

メッセージ

「主イエスの不在／とりなし主なるイエス」

（ヨハネによる福音書17: 1-11）

司祭ヨセフ太田信三

主イエスはご復活から40日後に天に昇られました。今、私たちは教会暦のなかで、主の昇天後、弟子たちが約束の聖霊降臨を待ち望んでいる、そういう時を歩んでいます。弟子たちがこの時直面した、「主イエスの不在」という状況、心境は、当時の弟子たちだけのものではなく、今を生きる私たちクリスチャンにとっても非常に身近な「問題」ではないでしょうか。

もちろん、私たちはすでに弟子たちに聖霊が降ったことを知っており、今も聖霊の助けにより生かされているのですが、時として、私たちは「主イエスの不在」という信仰の苦しみに直面します。祈りが聞かれない、今助けてほしいのに助けてくれない、そのような現実のなかで、私たちは「主イエスの不在」を感じ、不安になり、揺れます。今日の福音は、そのような現実を生きるクリスチャンを力強く励ましています。主イエスが「彼らを守ってください」と、私たちのために神に願ってくださるのです。そして、天に昇られた主イエスがとりなししてく下さるから、あなたが弱くとも、不安でも、揺らいでも大丈夫だと、そう今日の福音は私たちに宣言し、励ましています。

今日の福音は、主イエスの不在を感じ、葛藤し、揺れる、そういう人間であっても、あなたがたは信じることができるし、その先には、主イエスと神が一体であるように、あなたがたもその交わりに加えられ、一つにされる、と宣言しています。なぜなら、主が天上でとりなししてく下さっているからです。

だからこそ、今日の福音は、こうも述べます。「彼らはみ言葉を守りました。」「彼らは知っています。なぜなら、わたしはあなたから受けた言葉を彼らに伝え、彼らはそれを受け入れて、わたしがみもとから出て来たことを本当に知り、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じたからです。」

これを読む時、「わたしはみ言葉を守ることも、主イエスを真に信じ切ることもできていません」という思いを抱かずにはられません。しかし、それを決めるのは私たちではありません。それを決めるのは神です。その神によって、私たちはこうして今日も主イエスの名によって神の教会に連なる者とされ、神の家族とされています。これが私たちに起こっている真実です。

私たちは確かに不信仰な者でありながらも、確かに今、ここにいる。私たちがふさわしい行いをしたからではありません。主イエスが、神と主イエスとの交わりに私たち一人ひとりが加えられるように、とりなししてく下さっているからです。ですから、私たちは弱くとも、強いのです。

神は主イエスのとりなしの祈りを聞き、必ず私たちを守り、導いてくださいます。今、注がれているこの恵みを感じて、生きていくことができますように。